

泉北組教化分団 寺マルシェ開催

令和7年5月25日（日）泉北組助松・専稱寺様を会所に、大阪教区泉北組教化分団主催、大阪教区泉北組を共催として寺マルシェ事業を開催いたしました。

生憎の雨模様の中での開始ではありましたが、檀信徒や寺族の方々をはじめ、地域住民の方々、合わせて200名以上の方々にご参加いただき、また泉北組内の各お上人のご助力を賜りながら、無事、盛況の内に終えることができました。

此度の寺マルシェ事業は、近年言われております日本社会における一般の人々の「お寺離れ」の問題意識を持ちながら、檀信徒ならず地域住民の人々にお寺に参ることへの「身近さ」に再度気づいていただくことを目的として行われました。さらに、泉北組内の各寺院様が、今後、ご自坊でも寺マルシェが開催できるという意識を持っていただくため、開催規模も決して大掛かりなものではなく、実現可能な規模で行うことも目的の一つとしておりました。

当日は、お寺ができる企画として、木魚体験から始まり、智慧結び法要、さらには清興として三味線演奏を二人のお上人をお招きして執り行いました。また、合間に写経や数珠づくり、調香体験といった時間も取り入れ、来寺された方々に参加、体験していただきました。想定以上の体験希望者がいらっしや、どちらの体験も我々僧侶が思っている以上に求められるものであったのだと感じさせられた次第です。

また、別の楽しみの一つとして、キッチンカーや食事処のブースを設け、被災地支援のための物産展、野菜果物の直売所、念珠・お香の購入ができる場所も提供したところ、一休みしながら舌鼓を打ち、談話に花を咲かせながら、「次はあそこに行ってみよう、あれを食べてみよう」と参加していただいた方の笑顔が絶えない様子でした。

来訪者の楽しそうで、嬉しそうな表情を拝見しながら、「昔のお寺は、今日のようにたくさんの方が集まって話したり、子供は走り回って遊んでいたのだろう」という昔のお寺の在り様を想起することもできました。時代が移り、社会が変容したとしても、新しい形の憩いの場として、人々が手を合わせ、集まって話を咲かせる、そのようなお寺の在り方を目指してもいいのではないかと感じ



取りました。

閉幕後、企画スタッフには、片付け作業が待っておりましたが、皆一同に一安心とすがすがしい疲労の中、させていただいた幸せをかみしめ、この事業が、それぞれのご寺院にも広まっていくことを願いながら、また新たな活動へと決意の内に終えさせていただきました。

(泉北組教化分団理事 孝恩寺 田中浩典)

